



★失敗は成功のもと Part1★

テストで思うような成果が得られなかったとき、通知表でスゴ〜イ評価をもらったとき、部活動の試合で負けてしまったとき、全員リレーでバトンを落としちゃったとき、せっかくお弁当を作ってもらったのに家に忘れてきたとき、先生の悪口を言ってたら、自分の後ろにその先生が立っていたとき、外で歩いていてうんこをふんでしまったとき・・・。

その他もろもろの失敗をしてしまったときに使われる言葉。

「失敗は成功のもと！」(「失敗は成功の母」ということもあるらしい。)

「失敗」は長い人生の中で数多く登場する。「成功」よりはるかに多く登場するのである。しかし、「失敗」したから次は「成功」するかというと、そうは問屋が卸さないのである。

現実には「失敗」に「失敗」を重ねることも多く、その多さはまるで星の数ほどである。《私も失敗の繰り返し人生やったぞ!》

ほお〜問屋さんって
きびしいんね! 6/16

しかし「失敗は成功のもと」という言葉は、長い歴史の中で今も何らかの後利益があるはずである。でなければ、「失敗は成功のもと」ではなく、「失敗は失敗を生む。だからあきらめよ!」という言葉が残ってるはずであ〜る。では、「失敗は成功のもと」という言葉は今も生き残っているのだろう。いつものように辞書を引いてみるのである。

「失敗は成功のもと」

失敗すれば、その原因を反省し、方法や欠点を改める中で、かえってその後の成功につながるようになる。「失敗は成功の母」ともいう。

ということで「失敗」はそんな仕組みで「成功」につながっている。ここで注意。あくまで「失敗」は「成功のもと」であって決して「成功」ではないのである。カップラーメンはお湯を注がなければいつまでたってもラーメンにはならない。つまり「ラーメンのもと」なのである。

どうやら上の辞書の意味のポイントは、

- ① その原因を反省
 - ② 方法や欠点を改める
- この2つである。

そんな
かんたんか言って
それがさきんはん
困るとる

口で言うほど簡単なことではない。

例えばテストの点が悪くてその原因を反省し、

→ 反省
たりのかんたん

という反省、

→ 次はもっと
勉強がんばる

という欠点を改める程度では、

次のテストで再び「何もかわらない結果」となる運命である。(経験者も多いだろう) これでは「失敗は次の失敗の前触れ」である。

他人の過ちから学ぶことが必要だ。

自分でそれらすべての過ちをするほど、

長生きはしないのだから。